

上田市立丸子北中学校



(1) 学級数 14クラス

(2) 生徒数 男子216名 女子184名 計400名

(3) 職員数 33名

(4) 学校紹介

<http://www.school.umic.jp/mtmarukokj/>

本校は、東に烏帽子、浅間山を望み、清流、依田川左岸河岸段丘上、『竹の花』地籍に位置する。学校周辺の小川には蛍が自生するなど豊かな自然に恵まれると共に、学区内には木曾義仲挙兵の地、『依田城址』を始め、歴史的な遺跡が点在する。

また、学校の北側、小高い尾根上には『信州国際音楽村』があり、地元合唱団が活動したり数々のミュージシャンが公演したりしている。そして、周辺の公園では水仙祭やラベンダー祭が催され、毎年大勢の人々が訪れるなど、文化的な活動が盛んな地である。

『竹の花』地籍に建つ本校は、昭和29年、依田川中学校として開校し、昭和42年4月には丸子町立丸子北中学校、さらに、平成18年3月には丸子町と上田市との合併に伴い、上田市立丸子北中学校として、現在に至る。

校章は地名にちなんで竹の葉を



丸子北中学校校章

図案化したものである。

本校の教育目標は、

- 1 自ら考え、進んで学習する生徒（自主）
- 2 思いやりのある、心豊かな生徒（友愛）
- 3 明るく健康で、粘り強い生徒（鍛錬）

であり、生徒たちは、学習と部活動を両立させ、日々元気に活動に励んでいる。

また、地域との交流を図るために、

○PTAの協力も得ての通学区内にコスモスの花を咲かせる運動

○『あいさつロード』と名付けた通学路でのあいさつ運動

○地元の方を講師に招き、一般の方々と共に学ぶ『丸子コスモス大学』

などの活動を行っている。

このような活動により、学校に来るのを楽しみにする地域の方が増え、生徒たちも地域への関心が高まってきている。

(5) 大会テーマの受け止めと研究のねらい

本校では、学校教育目標の実現を目指して全校研究テーマを“「わかる・できる・いかす」～学びを創造する学習指導のあり方～”として授業改善に取り組んできた。

生徒の「わかる・できる・いかす」を育てるためには「基礎・基本の徹底」を図ることと生徒が学んだこ



とを活用できるような教材、教具、場の工夫が大切と考え、研究を重ねてきた。

その結果、まじめに授業に関わろうとする生徒が増え、学習する雰囲気向上してきたという成果がみられるようになってきている。

しかし、授業改善が進むにつれ「定着に費やす時間が十分に確保できていない」「生徒はまじめな取り組みをしているが、受身になってしまっている」という新たな課題が明らかになってきた。

そこで本校の授業改善のために、以下の3点を研究の基本的な方向とした。

- ① 毎時間の授業の中で、基礎・基本の習得の時間を確保し、取り組む問題を精選する。
- ② 生徒自身が無理なく既習の事柄をもとにして、自分の学習課題を解決していく過程を繰り返し経験させる。
- ③ 「授業内容が理解できた」「学んだことが使えた」という自己の成長に自信を持たせるため、学習の振り返りを全教科で要点的に毎時間行う。

本年度は、以上のことを基盤に、各教科の特性を活かした授業の改善について研究を進めている。

英語科では、本年度の長野県視覚・放送教育研究大会の研究目標にある「一人一人の子どもに生きる力をはぐくむこと」を、「粘り強く学習して身についた基本的な知識を使って積極的にコミュニケーション活動を図ろうとする態度を育てること」ととらえた。生徒一人一人が身につけた基礎・基本を基に、自信を持って表現活動を行うための視聴覚機器の有効な活用方法について研究を深めたいと考えた。

(6) 日常的な活用

○校内放送の活用について

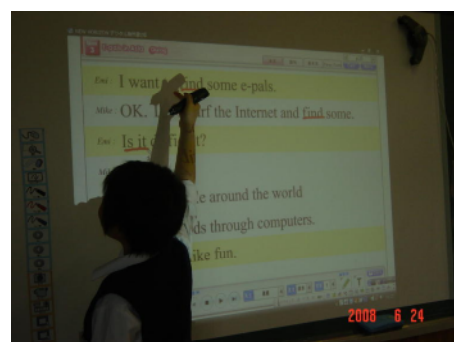
丸子北中学校の校内放送はテレビ放送ができるようになっており、放送室から各教室にスタジオを活用した放送やDVDなどの映像も送れる。

生徒会の各委員会でも放送委員会と連携してこの放送システムを活用・運用している。全校合唱の曲決めの際、候補曲を放送で流してアンケートをとったり、文化祭の昨年度の様子をDVDで流したりして、新入生に文化祭をイメージとしてつかんでもらおうと工夫している。また、応援歌の練習や全校合唱の曲を学活の時間に放送で流して合唱

練習に役立てるなどの活用もしている。

○プロジェクターの利用について

本校にはプロジェクターが3台配置されている。パソコンとも接続できるので、プレゼンテーションソフトを使って



全校集会や学年集会で教材を提示する等の工夫で使用することが多い。今回、使用する電子黒板は、本年度導入し、主に教科学習で利用している。電子黒板に教科書の画像をプロジェクターで投影しながら授業を進めるなど、その活用の方向を探っている。

○デジタルカメラ

デジタルカメラは、各学年に配布し、総合や各学年の行事の記録に利用している。データは学校用のサーバー内に映像関係のフォルダがあり、その中に蓄積している。

(7) 研究を推進してきたの現時点での課題

本校英語科では、研究テーマを「生徒が積極的にコミュニケーション活動に取り組むための指導のあり方」として、視聴覚教材・機器の活用を通して、生徒の学習意欲を高めながら指導の工夫をし、積極的にコミュニケーション活動を図ろうとする態度を育てていきたいと考えている。具体的には、視聴覚教材としての「デジタル教科書」を使用し、電子黒板による提示や効果的な活用について指導の工夫・改善を進めている。電子黒板については、その視覚効果で生徒の集中力を高めることができ、新単元や新出表現の導入時に生徒が興味をもつように、身近な絵や写真を使ってインタラクションをしながら積極的に練習活動に取り組ませることができる。しかし、視聴覚教材と機器をどの場面で何を目的に使用するかなど考えて活用することが課題であり、コミュニケーションを図る活動に積極的に取り組ませるための手だてについて研究を進めていきたい。